全教職員配布

くみあいニュース

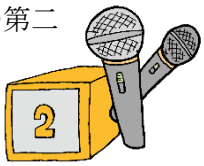
山口大学教職員組合（2021 年９月 24 日 Friday）

第 246 号（2020 年度-第 12 号）／電話：083-933-5034・メール：fuy-union@ma4.seikyou.ne.jp

学長選考 第二回意見交換会開かれる(9/18 常盤主会場)

常盤地区・吉田地区から計5人が質問・要望、谷澤氏からそれぞれ「答弁」

９月８日に続いて９月１６日（木）に、学長選考候補者（谷澤幸生氏）と教職員との第二回意見交換会が開催されました。今回は常盤地区を主会場として遠隔中継の小串地区・吉田地区の他、Webex での参加も含めて、全体で約 150 名の教職員が参加しました。交換会は前回同様、谷澤候補からの自己紹介と基本構想のポイント説明が３０分程度あった後、参加者との質疑応答が４０分程度ありました。



何を問題としどう解決するのか、最重点は？現状認識を問う

➡県・市との信頼関係、研究機関としてのアクティビティ発揮を目指す

まず、主会場の**常盤地区より麻生氏から**、「谷澤候補の現状認識について伺いたい。何が問題であり何でもって解決をと考えておられるのか、そのなかでも一番重点的に進めたいことは何か。」と総論的な質問がありました。

これに対し谷澤候補は、「一つに地域のミッションが挙げられる。地域に大事にされる、必要とされる、愛される大学へ。外部的には山口県や県内市町村としっかりコミュニケーションを取り信頼関係を築き、内部的には近年論文数が減少しており、大学ランキングの件も含めて、研究機関としてのアクティビティを、インパクトのある研究や個々の研究者がパワーを発揮できる、また組織立って活動・活躍できる大学を目指したい。」「課題は多くあるが、一つ一つ解決してゆきたい。」「学生が元気であることも重要。新型コロナでパワーを発揮できる場が減っている。元気になれるような施策が必要と考えている。」などと答えました。

パワーハラスメントで心身が壊される 問題解決へ向けトップの構えを

➡「足りないところは考えねば 機会を捉えて訴えていきたい

小串地区からは特に質問がなかったため、吉田地区会場からの質問となりましたが、はじめに**教育学部の森下氏が**、「学内でのパワーハラスメントによって教職員が心身を壊す事実がある。ハラスメント委員会があるが、なくならない実態がある。なぜなくならないのか、背景には職務や組織の問題があると推察するが、組織のリーダーである学長が「パワハラを根絶する構え」が必要だと思う。谷澤候補者は、学部長時代にその辺り、教員へ注意喚起をされたと伺っている。学長となった場合のご自身の構えを聞きたい。」と質しました。

これに応えて、谷澤候補は「問題になることが多いがしくみは整っている」と現状肯定的な見解を示しつつも、「足りないところがあれば考えることが必要」「色々な機会に私自身も訴えていきたい」等と説明しました。

文系基礎研究に対する認識を具体的に聴かせて欲しい
➡ものごとの真理に迫り新しい発見を行う基礎研究は重要

次に人文学部滝野氏が質問に立ち、「応用研究と基礎研究の重視と言われるが、文系の基礎研究について具体的に考えを聴かせてほしい」と尋ねました。

これに対し谷澤氏から、理系とともに人文・経済などの学部があるということが総合大学の根幹をなすものだと思っている、自身は医学部の中でも基礎的な研究をしてきた、ものごとの真理に迫り新しい発見を行う基礎研究は重要であり、理系・文系、両方とも理解して進めることが重要、等との説明がありました。

教職員の声を尊重した大学運営はどのような手立てで？
➡様々な懇談を是非行いたい、説明会も適宜開催する

続いて教育学部福田氏からは、前回の質疑応答を踏まえて、さらに具体的な「提案」がありました。第一回意見交換会で「教職員の声を尊重した大学運営」について「本当にそう思う」と言われたが、それをどう具体化するのかということについて、かつて丸本学長は、メルマガ「丸卓トークス」を毎月のように発行する、教職員との自由な懇談の場として「コーヒーアワー」を開設するなどした。また、重要な制度改変に際しては、全教職員を対象とした説明会をその都度開催し直接説明されるなどしていた。しかし現学長となってからは説明会開催が大きく減り、学長自身が一般教職員に直接語る、直接声を聴く姿はほとんど見られなくなった。谷澤先生はいかがされるおつもりか、等と問いかけました。

これに対して谷澤氏は「様々な懇談を是非行いたい」「説明会も行うなど、透明性の高い運営を目指す」「言っただけに終わらぬよう心掛けたい」等と、提言を受け止めた「回答」がありました。なお、福田氏が質問の冒頭に紹介した丸本元学長が就任後、事前に公約した研究費大幅増額を実施したことに関しては、「厳しい財政事情はあるが一生懸命考えていきたい」としました。

文科省言いなりでない大学運営を　軍事研究にどう対処するのか
➡すべて従う必要はない、兵器につながる研究はすべきではない

最後に人文学部竹中氏が、①学生・教職員の声を踏まえた大学運営は是非お願いしたいが、この間の SNS 問題・105 分授業問題等の初期対応、また、下関市立大・梅光学院大・福岡教育大・大分大学等での教職員無視・学長専制等の悪例に沿うのではなく、学部自治・学部教授会をどう受け止めるか ②英語民間試験問題のように、文科省・国大協の言いなりにならない、上からの圧力にどう抵抗するのか、と２点、質問・要望を行いました。また、軍事研究及びイノベーションコモンズ化を目的としたスペースチャージ問題等についての考えを問いました。

これに対し谷澤氏からは、各論への逐一の説明はありませんでしたが、文科省の言うことにすべて従わないといけないとは思っていない、いろいろと意見聞いて対処したい、と総括的な答えがありました。なお、軍事研究については兵器につながる研究はすべきではないと述べました。

＊防衛装備庁の「安全保障技術研究推進制度」について山口大学は 2019 年度に一件採択され、「日本科学者会議山口支部」「軍学共同反対連絡会」から抗議されましたが、2020 年度は学内の研究者から3件の申請があったものの、審査の結果、すべて申請不可としました。今年度については、組合から大学に確認したところ申請が1件もなかったとのことです。